広報
# さめがわ

1970
11月号
No. 204
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町・佐藤印刷所



## 村の畜産まつり

昔から馬産地で聞こえた鮫川村は、今では和牛乳牛の主産地。米の生産調整がきたときも転作の第1位は飼料作物でした。これから国の施策として進められる阿武隈山系開発の事業が軌道にのれば、更に大きな躍進が見られましょう。

村の畜産まつり恒例の畜産共進会は11月10日、秋晴れの畜産センターに典型的な牛をそろえ盛大に開催されました。

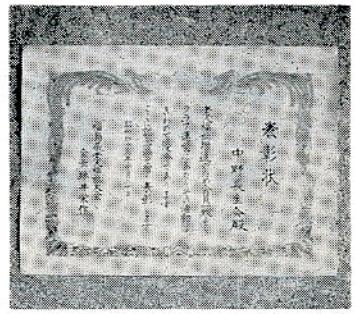
### ☆ 11月のこよみ ☆

1日　交通事故ゼロの日・狩猟解禁
3日　文化の日
7日　菊花展（10日まで）
10日　鮫川村畜産共進会
11日　世界平和記念日
15日　七五三
20日　第23回鮫川村文化祭（22日まで）
23日　勤労感謝の日
26日　火災予防運動（12月2日まで）

◉第3日曜は家庭の日です。

### 今月の人口

| | |
|---|---|
| 人口 | 6,705（＋3） |
| 男 | 3,399（＋6） |
| 女 | 3,306（－3） |
| 世帯 | 1,216（＋2） |



## 県老人福祉大会で中野長生会表彰さる

中野長生会（会長水野芳光）は会旗を作製し会員の志気高揚、組識の充実を図り、研修旅行は春、秋二回実施、各学校に雑布を寄附し、国旗掲揚運動を推進するなど活発な活動が認められ、去る十月二十日郡山市で開催された昭和四十五年度福島県老人福祉大会で運営活動が優秀であるとして表彰されました。

## 高令者の善意に感謝

去る十一月二日中野長生会の水野芳光さんと小松幸一さんが鮫川中学校を訪づれ、雑布一九二枚を寄附されました。

会員の皆さんが余暇をみて、ていねいにねいあげたこの雑布に生徒も先生も深く感謝しています。

たばこは
村内で買いましょう
たばこ消費税は
村の財源になります

□　□　□

## 季節学級生の募集

今年も村内の働く農業青年女子を対象に季節学級生を募集します

希望者は十一月二十日までに公民館事務局に申しこんで下さい。

記

一、資格……村内青年女子
二、場所……鮫川村青年研修所
三、期間……十二月一日～来春三月三十一日
四、学習内容……主として和裁一般教養、月一～二回勤労青年学園生と共同学習
五、その他……学級生研修旅行などの計画があります。

## おめでた

九月
馬場　鈴木　忠　父　正記
十月
楢久保　吉田　道明　父　初男
関口耕地　下重智子　〃　正佳

## おくやみ

十月
本坂　円谷　マン　82才　世帯主正雄
草牛　鈴木　ジウ　60才　信由
新宿　湯坐　清二　66才　清男
草牛　鈴木信之助　82才　美佐
西　高坂　シン　76才　武明

## 村政の歩み（43）

# 山村振興にかかる諸問題

村長　石田卯子八

一〇月一九日と二〇日の二日間北海道東北六県の山村振興ブロック会議が青森県で開催され、本県を代表して私もこれに参加しました。青森県はさすがに本県よりは寒く折から八甲田山の頂上には雪がふっているということでした。

会場は、中津軽郡の西目屋村の竣工したばかりの豪雪山村開発総合センターが選ばれました。「西目屋村」とは妙な村名だと思いましたが、ききますとアイヌ語のなごりらしいということです。

豪雪センターをつくる位の村ですから、大変な山奥を予想しましたが、引前市から南西に展けた平坦地で、岩木山が北東に大きくそびえ、西南東の三方が六〇〇mから一〇〇〇mの山にかこまれた一見平和郷といえるようなところです。

この豪雪センターは、村の中心地に建てられ、鉄筋構造三階建の近代的センスに富む豪壮な建物で二、〇六一平方m建築費一億六百余万円を費して建てられたもので、デザインも美しくなかなか立派なものです。

センターの機能は、一言にしていえば役場と公民館を一つにしたような感じの施設で、目的とする多面的な機能を十分に発揮して、山村の総合開発の実績をあげ得るか否かは、これからの運営にかかる問題です。

この地方は積雪も多いところですから、このような機能集中的な施設が意義あるものとうけとられます。

本県からこのブロック会議に提出した議題は、山村振興の特別開発事業の枠が、一町村三、〇〇〇万円では過少に失し、特開の目的を達することが困難であるし、またメニュー方式も形式的になると個性的な実態に即応できないので枠の拡大と、採択基準の緩和について提案したわけです。

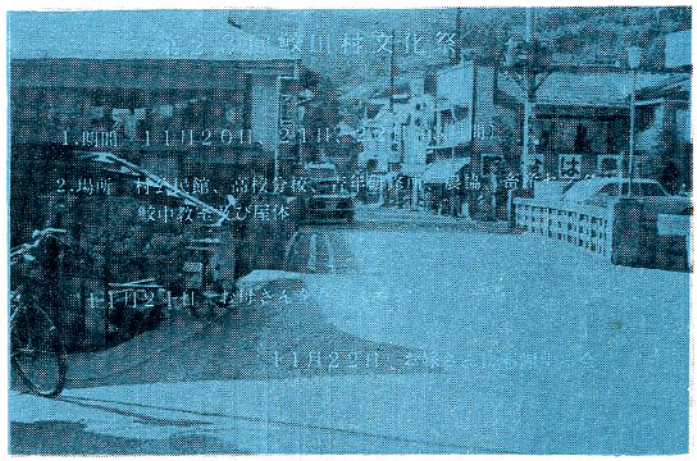
これについて農林省当局から同じ意見が述べられ、採択基準についても杓子定規にはとり扱わないとの回答を得ました。

また阿武隈山系、北上山系など広域農業開発基本調査の調査地域に指定され、国が調査段階に入った地域の山村振興計画と、広域農業開発計画との関連について、特に問題を提起したのですが、これは経済企画庁及び農林省から出席していた係官にとっては大きすぎる問題であるため、回答は得られずに終りました。

山村振興法制定以来五年を経過し、社会経済状勢の急激な変化があり、山村振興計画の実施上にもいろいろな問題が出ております。

わが村は今年度指定をうけて昭和四六年度から事業実施に入ることになりますが、全国的には該当町村でまだ指定されないところが多く残っており、時限立法の期間が切れることにもなります。

予算の大巾な増額、山村振興債の設定、次期対策の確立、過疎地域振興計画との調整など解決をせまられている課題は多いのであります。




鮫川村の文化祭は今年で二十三回目を迎えます。

文化は人間の積極的な生活の営みによつて、泉のごとく湧出るものとされております。

今年の文化祭も一九七〇年代にふさわしく、豊かにたのしく、みんなの力で盛り上げてゆきましょう。

期　日　一一月二一日・二二日(二十日会場準備)

会　場　主な行事

◉高校分校
・農産物品評会
・高校生徒作品展

◉青年研修所
・農業改良展
・生活改善展

◉農　協
・農　協　展

◉畜産センター
・農機具展

◉鮫中教室
・児童生徒作品展
(併せて東白川郡児童生徒美術展)

◉鮫中屋体
・お母さんをたゝえる会(二十一日)
・お嫁さんに感謝する会(二十二日)
・慰安芸能大会
・福島県内作家作品展
・鮫川村埋蔵文化財展

◉村公民館
・鮫川村埋蔵文化財展

◉ハンターにお願い!!

**猟銃の暴発や誤射のないよう特に注意して下さい**

(保管は弾薬を抜き移動中は必ず安全装置をして下さい)

―― 弾帯の保管は安全な場所へ ――

清掃奉仕作業に励む老人クラブのみなさん



(東石老人クラブ)



(青生野老人クラブ)

# 議会だより

## 西野駐在所を新築
## 議長に藤田卓三氏選任

第十回議会臨時会は十月二十九日に招集され、会期を一日間とし次の三議案が審議されいずれも原案どおり可決されました。

◉議案第四十三号　議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償に関する条例の一部を改正する条例

従来行なわれてきた災害補償額が遺族及びその者と生計を同じくしている、遺族の人数の区分に応じ五十五才以上の妻、又は廃疾の状態にある場合において条例に定める基準により支給されるように改正されました。

◉議案第四十四号　昭和四十五年度鮫川村一般会計補正予算(第七号)

村税二十四万一千円、自動車取得税交付金六十万六千円、県支出金八十四万七千円の財源で、棚倉警察署西野駐在所設計委託料及び工事請負費百六十九万四千円が補正されました。

◉議案第四十五号　国有林野整備臨時措置法による払下林野の所有権移転について。

村が国から払下げを受けた土地で当時の村長吉田義美から、字大竹、溝井末吉他二名及び字戸草、本郷勝重他二名に売渡されていた山林の所有権移転登記を履行するため、議会の議決を求めたものです。

◉選挙第一号　鮫川村議会議長選挙について。

一身上の都合により、議長芳賀悟朗氏が退職したので、後任議長の選挙を行つた結果、現副議長の藤田卓三氏が議長に選ばれました。

なお、副議長は追つて選出することになりました。

# 昭和四四年度決算状況のあらまし

昭和四四年度は、青生野小学校舎の再建、統合中学校第一期工事・林業構造改善・道路網整備などの大事業を完成しながら引続いて健全財政を堅持することができました。

ここに一般会計又び特別会計の決算状況をグラフによつてお知らせいたします。

（事業勘定）

## 昭和44年度　一般会計決算

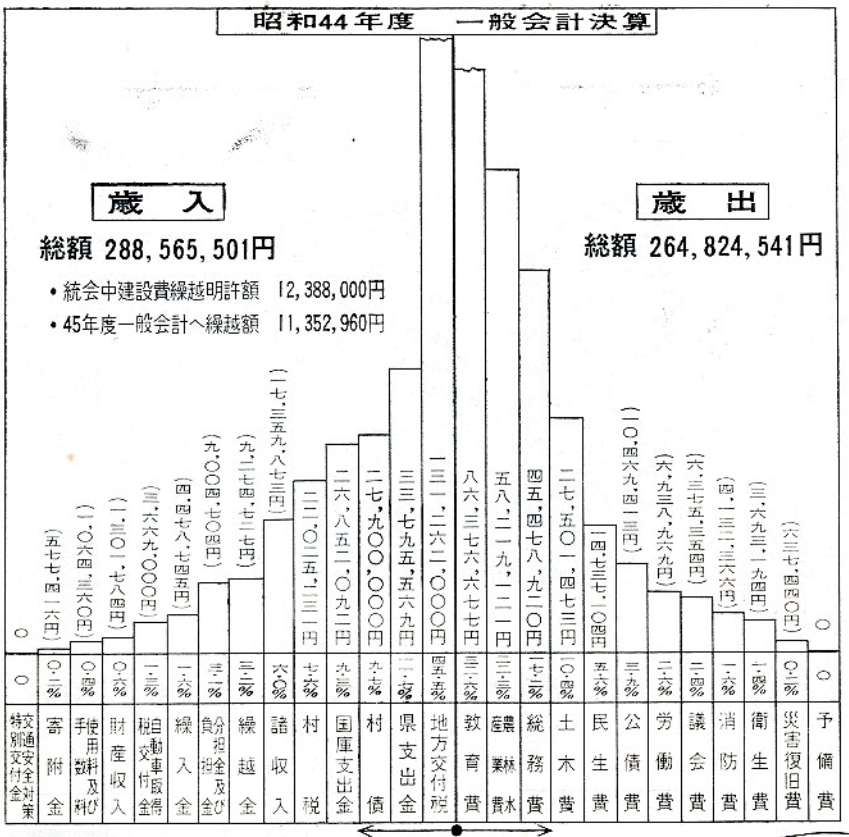
### 歳　入

総額 288,565,501円

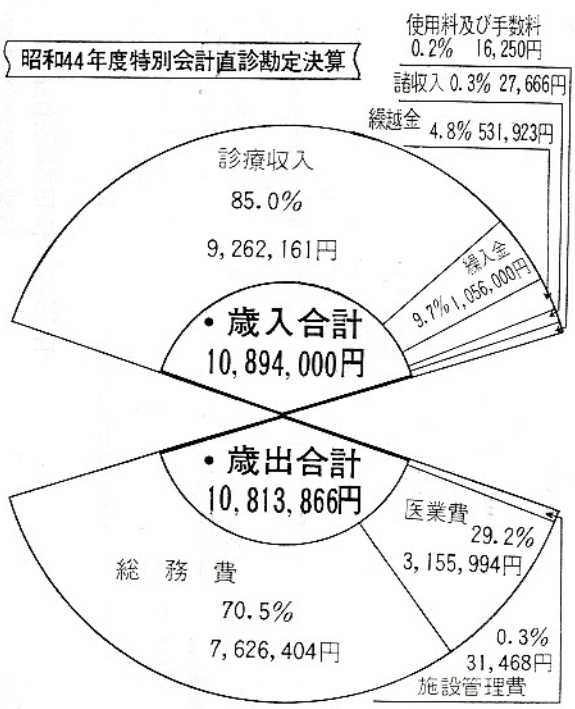
- 統会中建設費繰越明許額　12,388,000円
- 45年度一般会計へ繰越額　11,352,960円

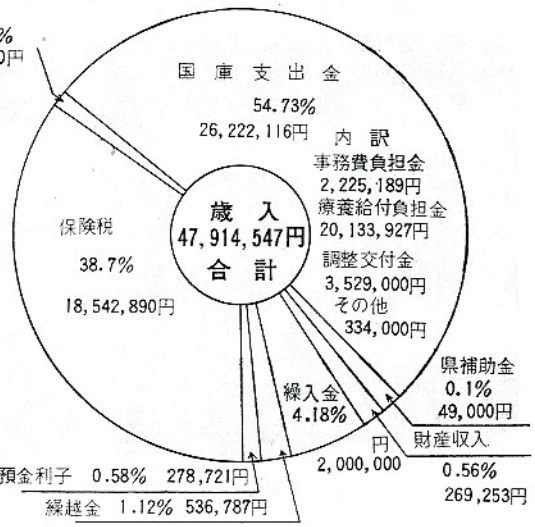
### 歳　出

総額 264,824,541円

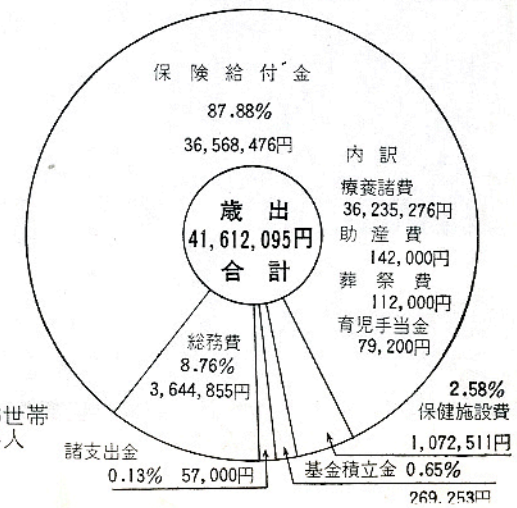



## 昭和44年度特別会計直診勘定決算




歳入歳出差引残　6,302,452円




- 平均世帯数　1,043世帯
- 平均被保険者数　5,894人



繊和工業福島工場の作業風景

## 目ざましい工場の進出

純農山村の静かな村里にも産業革命の波が打ち寄せています村内には、富岡電子鮫川工場（テープレコーダー部品組立）。成島製作所（ステレオ部品組立）。岡本理研水越製作所（エアーマットレス製造）の3工場（協力工場）が操業中ですが、このたび繊和工業株式会社福島工場（延べ438.42㎡）が赤坂中野字伏木田地内に設立され、10月1日から本格的な操業を開始しました。この工場は男子専門の下着類の製造で、現在42名の従業員が月産3,000枚の生産目標にがんばつております。

## 鮫川村の人口概数 — 6,404人
## 国勢調査の結果まとまる

10月1日現在で実施した第11回国勢調査の結果次のとおり世帯と人口がまとまりました。

人口は過疎化の現象がはつきりあらわれ、10年前の国勢調査の結果より1,522人減少しています。

| 大字別＼世帯人口 | 世帯数 | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| | 戸 | 人 | 人 | 人 |
| 赤坂西野 | 169 | 521 | 501 | 1,022 |
| 西　山 | 177 | 517 | 504 | 1,021 |
| 赤坂中野 | 229 | 531 | 546 | 1,077 |
| 赤坂東野 | 242 | 635 | 684 | 1,319 |
| 富　田 | 115 | 301 | 273 | 574 |
| 渡　瀬 | 163 | 436 | 433 | 869 |
| 青生野 | 105 | 285 | 237 | 522 |
| 計 | 1,200 | 3,226 | 3,178 | 6,404 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 昭和30年 | 1,210 | 4,019 | 4,237 | 8,256 |
| 昭和35年 | 1,255 | 3,868 | 4,058 | 7,926 |
| 昭和40年 | 1,249 | 3,572 | 3,719 | 7,291 |

（註）45年国勢調査の結果は、後日統計局が公表するまで概数として取扱われます。

鮫川史（24）

# 戦国時代と神社仏閣

国島義広

元亀三年十二月、徳川家康と武田信玄の三方ケ原の戦、天正三年三月織田信長と武田勝頼の長篠の戦、同じく天正五年五月二日鳶の巣文球山の戦と相次ぐ戦乱の真只中の天正八年五月七日に陸奥白川郡赤坂郷に鬼越神社の新祀がある

又各所に時を同じくして神社の新祭仏閣の開基が見られる。

例いば遠ケ竜の天神宮は少し遅れて享保二年八月二十五日に建造され、西野熊野神社も新祀当時の棟札が不明だが境内の石碑には永録元戊午閏六月九日此の地に移すとあり、中野八幡宮は前号で述べたが慶安四年に新建され、富田八幡宮は薬師堂修復と同じく寛文八年の修理の棟札あり、渡瀬天満宮は天正中で富田東光寺焼失再建も同時代である。

世が麻の如く乱れ戦争に明け暮れて、南船北馬一日として寧日なき時代に、斯の如く各所に新祀修復が行われたのであろうか。尤も明日に我が命が知らず、神仏に託する武人の心理、信仰に生きるの念は察するに余りあり、筆者が各所の神社仏閣を調査した結果左の如き証査が得られた。記して参考とす。

鬼越神社棟札（写）

奉新社鬼越大明神御本地乃毘沙門

天　千時　天正八年庚辰卯月七日

別当　権大僧都宥覚法印

大檀那　源朝臣重光、家光

○

遠河竜夫神宮棟札（写）

卍奉造立夫神宮宇右為

千時　享保二丁酉歳八月二五日

供養導師光明寺法印宥等

大工当村　蛭田又六郎

○

右の如く二社共に別当元明寺で大旦那祭主は時の領主である。

富田八幡宮は別当東光寺祭主は棚倉内藤豊前守藤原信照公であり渡瀬天満宮は別当観音寺で祭主は棚倉領主である。大塩の観音堂は享保元申年で導師長音寺衆密禅宗拝とあり塙代官は祭主である。

又石神村阿弥陀堂厨子宇は延享四年九月で薬師は此丘長遠円山鼠とある。

何れにしても天明の飢饉、天保の凶作と相続く大飢饉により、各地の住民離散逃走餓死して寺院が廃寺となる。

例えば西野大塩の弥惣寺（天台）塚本下の報徳院（天台）、切払の明徳院（不詳）、名下の泉蔵院（真言）石神の台宝院（天台）西山押野の自性院（真言）赤柴の西福院（曹洞）大沢の来光院（曹洞）横沢の大法院（曹洞）中野新宿の光明寺（曹洞）常行寺（日蓮）竜宝院（一向）東野巌ノ草長福寺（真言）内ケ竜の東正院（真言）各所の密寺が廃寺となり、幕末に隆盛を極めた曹洞宗の長音寺に大同統合となり、現在の如き大寺院となつたのではあるまいか。

## ◉秋季全国火災予防運動展開!!

来る十一月二十六日から十二月二日まで、秋の全国火災予防運動が実施されます。

お互にわが家の防火総点検を実施しましょう。

これからが火災の発生しやすい季節です。次のことについては特に注意して下さい。

◉ブロバンガズや石油コンロの取り扱いは慎重に。

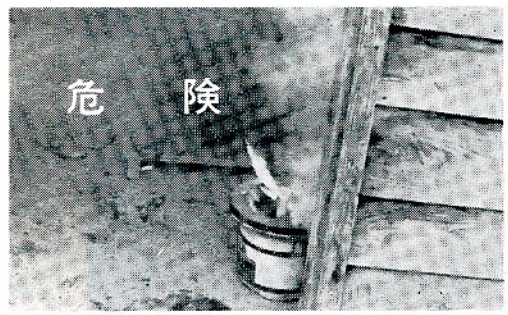
◉コタツの火の消し忘れ、切り忘れのないように。

◉タバコのなげ捨てと寝タバコは絶対しないように。

◉フロやカマドの火の始末は完全に。

◉子供の火あそびは絶対させないように。

あぶない消し忘れ　切り忘れ
出る前、寝る前もう一度




## お知らせ!

### 西野駐在所新築

西野駐在所の建物が老朽化して使用に堪えなくなつたので今度これをとりこわし現在の場所に新築することになりました。十二月末頃までに完成する予定です。

新築の期間中は臨時駐在所を酒垂の西野公民館に設置することになり、過日引越しましたのでお知らせします。

世界の願い交通安全
正しい運転、正しい歩行
◎歩行者も交通規則を
守つて下さい。

## 完納に御協力を

### ——村税——

昭和四十五年度分の各種村税はおすみですか。

残すところ十一月納期の固定資産税第三期分、十二月納期の村県民税第三期分と、国民健康保険税第五期分です。

納期が過ぎてまだ未納のある方は何かと御都合もあるかと存じますが、今すぐ納入され、十一月及び、十二月納期分についても期間内に完納されるよう御協力の程おねがいします。

### ——個人事業税——

○個人事業税第二期分の納期は十一月三十日までです。期限までに完納を、お願いいたします

○県税の未納はありませんか。

住みよい郷土を築くために、未納の税金はいますぐ完納いたしましょう。

○白河県税事務所と、村では、十一月から共同で自主納税推進運動を実施中です。自主納税にご協力ください。

密造酒、飲むまい、買うまい、造るまい。
密造防止協力会
白河税務署

## ふるさと

### ‖今にして想う‖

故郷を離れて異郷に住むと年を経る毎に思出がかさむものである年老いたせいなのか、祖霊の眠る郷土に対する愛着か不思議なものである。今日のように食生活が充されてくると少年時代にたべた糧飯の思出が懐しい。少しばかりの米に大根の刻んだもの、大根の葉を陰乾しておいて刻んだもの或はサツマイモやジヤガイモの刻みこんだもの、大麦にあつては上級のものでなかなか食べられないものであつた。それと云うのも大正の末期までは鮫川村では麦は作つてもとれないものとされておつたようである。鮫川村と云つても広いので赤坂東野のことである。

その頃新しい農業技術を身につけた石田先生（現村長）が着任し、その技術指導によつて麦ができるようになつたと亡父から聴かされたものである。土地の改良も堆厩肥の肥効ある生産も知らなかつた時代であつたから米の生産技術の低かつたことも想像がつく。こうした食糧不足のなかで四～五年おきに凶作がやつてきた。常に米をもたねばならないので、今日ではきらわれ米になつている古々米をたべたものである。技術がどんどん進み凶作もなくなり麦も米もとれるようになつたが、今日では米があり余つて米を作らない施策がうち出されてきた。当時を考えると夢のような話しで世の中も大きく変つたものである。

純農村では深刻な悩みがあるものと思う。広報を見ますと今までの積極政策を更に前進して、総合農政対策室を新設して、農業振興整備計画を英知の結集によつて方針を確立し、その計画実現に邁進されることをみるとき、都市と均衡のとれる高所得の実現を図られることは村の繁栄期してまつものあり、と喜びに堪えません。

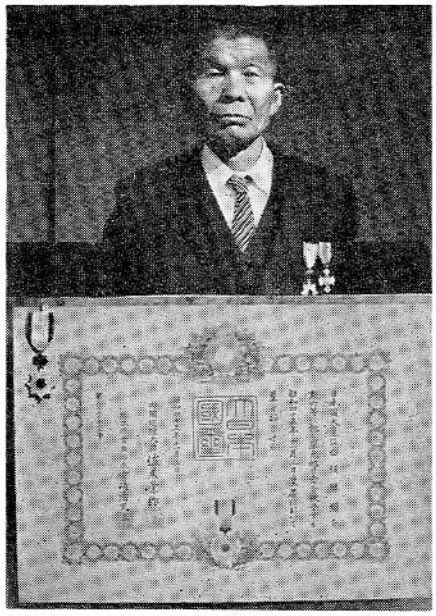
明治に生れ大正に育つた私の郷土感に自分の家の繁栄を望み、隣の家の土蔵の崩れるのをひそかに希む情ない心根があつたように思う。喜ぶ人と共に喜ぶ大らかさは村の生活環境をよくし村の繁栄に連らなるものであります。

故郷鮫川村の空は澄みきつて美しく、鮫川のせゝらぎは清い。農集電話も各戸に施設された。自家用車もふえるばかりで昔のように街との距離感はなくなりました。電話、自動車の普及などで不自由さがなくなつた今日、鮫川村の生活環境は最高のものであると思います。

今後とも村の施策に総力を結集されることを祈つて止みません。

いわき市嘱託　白坂　信已
（赤坂東野出身）

# 珠玉の人生に贈られた
# 勲六等単光旭日章
## 民生委員白坂勝弥氏の光栄



赤坂西野字茅の白坂勝弥さんは昭和一二年一月、国に方面委員の制度が生れたときから、委員に委嘱され、引続き現在まで民生委員として三十四年の長い間、終始一貫して本村の民生事業に貢献されました。

その間民生の安定、生活困難者の援助救済、更生、紛議の解決、刑余者の保護指導などに尽された功績は数知れず、住民から深い尊敬と信頼を寄せられております。

このたび天聴に達し、秋の叙勲で勲六等単光旭日章が授与され、一一月六日知事公舎で木村知事から伝達されました。

一一月一一日には皇居の豊明殿で天皇陛下の賜閲をうけられます

白坂さんは昭和の初め頃から学務委員、赤坂西野区長、村会議員調停委員などを歴任され、保護司人権よう護委員など社会の恵まれない人々の味方として、誠実熱心に、しかも豊かな人間愛の精神から私財を拋つてつくされた人生はれいろう珠玉の如く、このたびの叙勲によつて一段と光り輝くことでありましょう。

# 第1回林業親子学級に参加して

九月二十一日、二十二日（一泊二日）中通りブロックの親子林業学級が棚倉、郡山、福島、各林業事務所管内から親子二十二名が参加して開催されました。

日程、九月二十一日、午後一時半オリエンテーション一時半より六時まで優良林業経営事例の視察六時より八時まで交換会話し合い。

県農林課の諸先生とあいさつ。来賓の祝辞が行なわれました。後継者の自家経営紹介には、経営上の問題点を発表しました。優良林業経営地見学は、東白川森林組合主催の良質材コンクールで知事賞を受けた菊地武栄さんの杉山を見学しました。バスで、塙町川上地区より弘法山方面の人工造林地は数百ヘクタールに及ぶ立派な緑の山々で、係員の説明を聞いてただ感心するばかりでした奥久慈塙ホテルに、七時に着いて夕食と話し合いをしました。

第二日目は午前八時半より十一時四十五分まで全体討議。昨日発表した問題を親側と後継者側から話合いました。良質材、生産に関する労力、経費、雪害、枝打用具など活発な意見の交換が行なわれた。「木材は山からくるのでなく海からくる様になつた」といわれる現在、どのような経営をしたら良いかと真剣でした。労働力の不足、雇用労賃の値上り、山村より離れて行く若い者にどのようにして山の魅力を持たせるか。機械化除草剤使用法、畜産と林業を結びつけた経営、どのようにしたら直面している問題が解決するか。討議の結果は量より質へと集約経営を進め採算のとれるようにすることであると結論づけられました。

親子学級は、親の立場から林業に関しての体験、今後の経営上の問題が発表され、子の立場からは親に対しての要望が発表され、各専門の先生の助言があり、意義ある日程を終りました。

赤坂東野　宗田　稔



# 入学案内
## 福島県農業短期大学校

県立農業短期大学校は、ゆたかな人格の形成をはかり、一般的教養と農業に関する科学的、専門的な知識や技術を高め、農業の近代化を推進する創造的実践力にとむ人材を養成するために創設された大学校です。

◇　◇　◇

一、科名と募集人員
・農業科二〇名　・園芸科二〇名
・畜産科二〇名　・蚕業科一〇名
・協同組合科四〇名

二、受験資格
・高校卒業者又は明春卒業見込の者

三、出願期日
昭和四五年一二月一五日より
昭和四六年一月一五日まで

四、願書提出先
福島県農業短期大学校
（福島市荒井字地臓原乙三〇）

五、試験期日
昭和四十六年二月二十日及び二十一日（二日間）

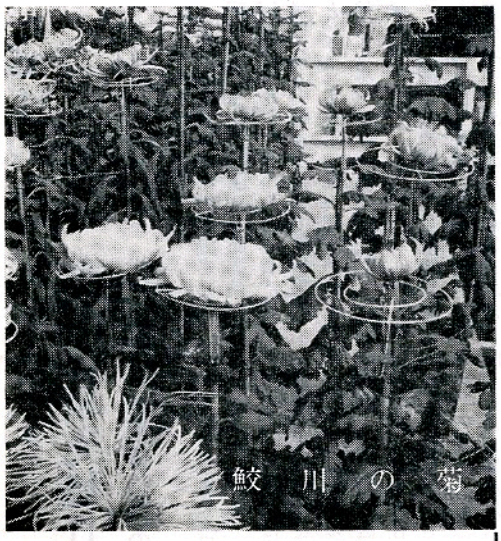
六、その他
・授業料及び入学金は徴収されません。
・願書の必要な方、又は詳しく知りたい方は、同校庶務課に連絡して下さい（電話＝佐倉局〇二四五〇四の一六一番）

# 文芸

## 短歌

九月詠草

農集電話入りしその夜に東京の吾子の声きゝ涙ぐみけり　モト
谷川の音のさやけさほのぼのと山の端いまし月のぼりそむ　貞子
晩霜を怖れ植付遅き煙草葉の稚きがかなし日照りに入れり　長逸
物思う頃とはなりぬなにとなく月さす窓にねむれざるなり　実
庭さきの花にたわむる蝶のむれお茶のみながら見るも楽しい　健治
我が門を曲ればさとく鳴く牛か一握りの草に鼻面なでる　ミキ子
妻の名を忘れて過ごすひとゝきの幸福感よ胸に手を置く　京子
三合の電気炊飯器音たて、商ひの品ととのいる朝　七星
菩提寺を緑で囲む植林に奉仕の大鎌汗と光りぬ　凡斉
豊作の稲田の稔り光りいぬ蜘蛛の巣あまた立秋の朝　叭
脱皮して柔かき羽根ふるいつつ今宵幼き鈴虫の声　晃月
稲の穂に交る稗の穂引き進む据えたる視線ゆるく移しつ　忠男
休耕地荒れ果てつゞけおもだかの花いちめんに夕闇迫る　継緒




## 菊・菊・菊……

キクの起源については、いろいろの説がありますが、中国の揚子江沿岸の山野に自生していたシマカンギクと、チョウセンノギクとの雑種から改良されたという説がもつとも有力です。

キクが日本に渡つてきたのは「類聚国史」に

“この頃のしぐれの雨に菊の花
　散りぞしぬべきあたら　その香を,,

という一首がのつている。これは桓武天皇が詠まれた即興の和歌で、キクという名がみえた最初のもので、おそらく奈良朝中期以降だろうと推論されています。今では、種々改良され、品種も多く11月ともなれば愛好者による菊花展が開かれ、私達の目を楽しませてくれます。（4日撮影3分咲）

## 俳句

九月当季雑詠

耕運機嫁に運転させて秋　モト
軒に吊る風鈴の音も枯れにけり〃
穂芒に月かげり来る庭ふかし　長逸
秋茄子や孫彦に長生きせねば〃
途戻り裏で畑の茂子もげば　貞子
枝打ちて戻る木の間の夕月に　兼光
板を打つ声かけ合ふて秋の山〃
避暑の客碁盤の重さたがき来る　実
湖渡る初秋の舟のすべり来る〃
桑の葉のほこり落しといふよき雨　ミキ子
闇ふかく心やすらう風鈴よ〃
広き葉を朴とたしかめ夏木立　七星
遠花火屋根上に見えあと静か〃
蜻蛉追ふ杣の子速しあかね雲　久月
長袖をとり出す朝の萩の雨〃
風鈴の音が静かに雲よぎる　吟月
鈴虫や並木の蔭に暮るる庭〃
鶺鴒の鳴くや川辺に草を刈る　五黄
途切らして鵙の高音や村祭〃
散髪をしながら交す残暑のこと　良二
夏草を靡かせるだけで昼の貨車〃
二夜にてかへれば淋し孫の盆　羊羊
鶏頭の色一段と残暑かな〃
暑き日となる村長の始球式　斗暁
西瓜食ふ三角ばかり残りけり　斗暁
寺の土堤刈り残されし花芒　弘嶽
村祭明日に迫るや吾亦紅〃

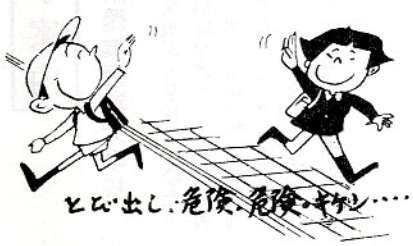
## ……一番こわいとび出し！……

子どもの交通事故はとび出しによるものが圧倒的に多く、昭和44年の子どもの交通事故は75.3%を占めています。

幼児がほとんどで、13,394人のとび出し事故にあつた子どものうち、幼児は9,862人となつています。

◎ 手をしつかり持つて！

子どもの事故の責任は親にあります。子どもは衝動的な行動が多いので、子どもといつしよに出かけるときは、手をしつかりにぎつてはなさないことが大切です。




## 季節の健康メモ（冬）

◉農村に多い高血圧

高血圧と食生活は切つても切れない相関々係があります。

高血圧を悪化させるのも軽くするのも、ある程度食生活のいかんにあるわけで、厳重な食事制限をして栄養のバランスをとりながら長期にわたつて実行することが大切です。

食事は規則正しく、腹八分にゆつくり食べます。急いで沢山食べると急に代謝が高まつて血液の量が増え、血圧が亢進します。

食塩の摂取は少なくしましょう日本人の食塩平均摂取量は一五～二五gですが、半分の八gに減らして下さい。これを二ケ月位つゞけると一〇〇人中八〇人位までは血圧が下がります